

- 1 会議名 議会基本条例推進協議会
- 2 日時 令和2年6月19日（金）  
午後1時29分から午後2時22分まで
- 3 場所 第2・第3委員会室
- 4 出席議員 全議員
- 5 欠席議員 なし
- 6 事務局出席者 議会事務局長 丹羽至、同主事 丹羽亮二
- 7 会長あいさつ
- 8 報告事項

（1）各チームの現況報告について

I C Tチーム長片岡議員：全員参加でZ O O Mを利用した会議を開催した。一部音声聞こえない等、少しトラブルはあったが、最終的には全員が繋がり声も映像も確認できた。今後どのように使っていくかというのは本協議会の中で検討していただければ。環境は整ったということでテストの目的は達成できたのかなと思う。続いて、委員会放送のカメラについて、この場で皆さんに承知して頂き、来年度の導入に向けて予算化していくことで合意したかと思う。しかしコロナの状況で、傍聴の自粛をお願いしている中で、本会議については録画放送があるが、委員会については録画放送を現在していないということで、なるべく早くこちらも公開していきたい。もし議会費の中で工面できるのならば、今年度中に委員会の放送の為の設備を購入したい。前倒しすることに関して皆さんの意見をお聞きしたい。

【質疑】

須藤議員：カメラの予算はどのくらいか。

I C Tチーム長片岡議員：以前の報告で資料を出している。1台あたり10万円程度で導入できる。2台で運用するとすれば20万円程度。概算である。

木村議員：予算を流用するときのルールを確認したい。

議会事務局長：議会費がそもそもギリギリの予算しかないので、流用できる所がないのかなと思う。

大野議員：早めるのは反対ではないが、事務局の体制は大丈夫なのか。放映、音声とマイクと合わせて、出来るのか出来ないのか、体制が一番の課題だと思うが。

議会事務局長：これまでテストしてきた中では、カメラを固定設置、始まる時点で録画のボタンを押し、途中休憩もあるが、終わった時点でその都度押せばよいので、さほど負担ではないかと思う。

宮川議員：積極的に導入したい立場。仮に複数台を利用するということにな

ると操作もさることながら、編集という作業にもかかってくると思われる。その辺を含めた体制が確保できなければいけない。まずは1台でスタートすることも可能だろうし。そういった、現実どうすればよいのかというところで議論していった方がより具体的な案が出てくるのでは。

I C Tチーム長片岡議員：まずは1台から始めてもいいのかなと。2台であってもリモコン等で操作出来るので、私は問題ないと思う。費用の面もあるし、まずは一台で始めて、なるべく皆さんが映る配置でやればよいのかなと。予算に関しては議会費の中では難しいとのことなので、補正予算をコロナ対策ということでお願いできればと。皆さんの合意が取ればそういう対応としたい。

鬼頭会長：今年度は実施計画を実施せず、直接、予算計上に入っていくということで聞いているので、その時点で申し込みをしていくことでもいのかなと。皆さん、ご異議なければ導入の方向で進めていくという方向でよろしいか。（異議なし）では、その方向で。

B C Pチーム長大野議員：5月25日開催予定だったが、開催できず。6月議会が終わってからまた日程調整して、ただちに作成に取り掛かる。

【質疑】

特になし。

市民参加チーム長宮川議員：進んでいない。学校とか市民との動きとの関係もあり、もう少し落ち着くまで猶予を頂きたい。

【質疑】

梅村議員：前の資料で子ども議会の方が10月25日とあったのだが、その日程とは全て破算なのか。

市民参加チーム長宮川議員：学校行事が確定するまで、白紙に戻すということで話し合いが進んでいる。

（2）その他

特になし。

## 9 協議事項

（1）オンライン会議による議会報告会及び意見交換会について

鬼頭会長：先月26日に接続テストを行った。皆さん、一応つながったのだが、なかなかこれを議会報告会とか大きい会合で使うのは難しいという意見も聞いている。意見交換会等、限定された方々と一回使ってみてはどう

かという意見もある。今後こういった形が一番良いのか何かご意見あれば。

宮川議員：実際やってみて、通信出来るのかどうかの確認にとどまって、会議と言えるものではなかった。その時の反省にもあったが、仕切る側がどうコントロールしていくのか、どういうスイッチングができるのか、どういう意見交換の仕方がルールか、形式的にできるのか等が今後の検討課題。もう少し、議員の中で経験値をあげていかないと、外の方にお声を掛けてちゃんとした意見交換ができるようにするためには、まだまだ経験不足。その辺は機会ある毎に数をこなしていくべきと感じた。

木村議員：この前のテストが議会の中だけでもあの程度だったため、広げて議会報告会、意見交換会等で使うのはまだ難しいと依然として思う。また、公共施設を使えるようになってきており、距離はとって、顔を合わせてやる方が、絶対いいに決まっている。意見交換会ならば少人数になるので可能性としてはできるのでは。メンバーの中で感染の危険を感じるような方がいれば、別の形での参加、ZOOMやLINEを使って参加されてもいいのかなと。

大野議員：本来は委員会のみで使うことになっている。濃厚接触者になって議会に登庁できない人対象に、ZOOMでも参加できて採決取れるみたいなのが今の求められている姿で。今、本会議ではオンライン会議はできない。実際の出席をもとめることになっている。今、全国で一斉に意見書を出そうという動きもある。例えば、コロナだけでなく妊娠中等、ZOOM会議で、採決が取れるような形、そういう形が将来的に求められている、というところを認識していただいて、まだ、市民の皆さんとオンライン議会報告会を行うには岩倉市議会としては時期尚早ではないか。他の会議とかは主催者側がみんなミュートにして、自分でミュートを外して発言する、そういった形で主催者が仕切っている。それができない間は難しいと思う。

片岡議員：仕切る側のスキルも大切。今後、選択肢の一つとして良いのかなと思う。ふれあいトークへの参加のしやすさという意味では、コロナが収束したとしても、こういったツールを使う手法が一つ増えるということは悪いことではないと思っている。導入を進めることを検討してくことを皆さんに協力していただければと思う。まずは、議会での練習が必要であれば、議会の中でまた使って行って、スキルや取り回しの仕方とか勉強していってもらえたらなと。引き続き、議会の中で使うことをお願いしたい。

宮川議員：少し視点を変えて。ふれあいトークの中で、できるだけ市民の中に入りこんで、いろんな意見を集約したいというのが当初の考え方だったと思う。木村議員が言われる、熱をどう感じるのかというのもとても大切だと思う反面、今までの反省で、我々が一番お声を聴きたい女性、特に子

育て世代の方々が、地域に入りこんでしまうと、自分たちの意見をなかなか言えないというのが現実として感じる場所である。PTAや父母の会とか限定された会の中でも、小さなお子さんを持つ方々は時間的制約もあり会場に来ていただくことが難しい状況もある。そういう観点から、ZOOM会議の在り方は、使い方によってはすごく有意義な意見収集の場になるのではと期待している。いかに外の意見を集約するかという多面的な視野で、今後の活用を市民参加チームでも考えていきたいと思っているが、私はハード的なものが苦手なので、ICTチーム長片岡議員でもう少し掘り下げてもらえたらありがたい。

木村議員：オンライン会議の必要性和女性の意見が出てこないというのは別問題。一緒にしてしまうのはよくない。女性を対象にした意見交換会をやることのほうが効果的だと思う。

鬼頭会長：議会の中で利用しながら、外に向けてどんな形で利用できるか検討しながらやっていきたいと思う。今年はコロナの影響もあるので一度くらいは外部に向けてやってもいいと考える。やはり取り回しが難しいと思うので、スキルもあげながら考えていきたい。

## （２）市議会サポーターとの意見交換会について

鬼頭会長：7月18日（土）に3回開催すると前回決定した。事務局からサポーターの皆さんに連絡をしてもらい、18名に連絡、返事がない人が4名いる。お一人は引っ越された。アンケートで、午前中が5名、午後1時半が5名、夜7時が1名という結果になっている。返事がない4名には事務局からもう一度手紙を送って連絡をとってもらうことになっている。現状11名が参加。参加ができない方が2名。あと4名の方がどういった振り分けになるかは分からないが、3チームに分けてみるのか、2チームにしてしまっ、参加できる議員には夜も来てもらうとか。どういう形がよいか。夜の部の一人が、もし変わっていただければ、午前、午後。水野議員は夜しか来られない。

須藤議員：夜が一人なので昼間来られるかどうか確認して、来られるようなら2回に分けては。

大野議員：仕事の都合もあるのでそれは尊重して、正副議長にお任せする。あとは2チームに分けて午前と午後にしたほうがいい。

鬼頭会長：写真は事務局が撮ってくれるということなので、司会、記録の役割も決めたいと思う。午前と午後で分ける。

午前 大野（司会）、宮川（記録）、伊藤（案内）、堀、片岡

午後 木村（司会）、須藤（記録）、井上（案内）、梶谷、関戸

夜：黒川（司会）、水野（記録）、谷平（案内）

事務局はお手伝いだけしていただければいい。夜が変更可になれば、午前と午後で人員も変更する。意見交換会のテーマとしては1年間を振り返って自由にご意見を言ってもらおう。意見交換しながら今後に繋げて欲しい。それから、次期再任ということで、今年は公募と無作為抽出をしていないため、再任の方だけ。今のところ4名の方は再任で、もう一年やっていただける。それ以外の方はまだわからない。できないという方がほとんど。先程の意思表示されていない方が何人かいるが、今年は少なくなりそうだ。

### （3）「市議会サポーターの声」について

鬼頭会長：17番から21番まで。2か所まだ担当委員会が入っていないが、厚生・文教常任委員会かどうか。

梅村議長：私が振り分けなければいけなかったのだが、内容としては厚生・文教常任委員会かなと思いながらも、本会議の一般質疑等々で回答が、当局が答えている範囲なので、議会運営委員会にもぶつけてもいいのかなと迷ったもので空欄になっている。

大野厚生・文教常任委員会委員長：一般質問で回答が既に出ているので、議会運営委員会の方で整理していただきたい。

### （4）議会改革の推進及び検討事項について

鬼頭会長：資料説明

大野議員：現実的なのは議会サポーターと一緒に検証していく方がいいのかなと。1～2日くらいあればいいなと思う。お金をどうするのかという問題はあがる。

鬼頭会長：今回、再任が4名なので、入っていただくのも良いと思う。

黒川議員：行政評価について、特別委員会が訓練の場、まだこなれてないけれど、そういった資料の中でいかに課題をつかんでいくか、それが一番良い訓練。当面は訓練というか作業を重ねていくといった位置付けでいいと思う。決算審査から、予算反映への資料作りというのは、ここ数年、財務常任委員会で行っているし、先だって6月8日付けで各常任委員会委員長3人が議長のもとで政策提言・要望の諮問をいただいた。それに基づいて本年も進めていきたいと思う。

鬼頭会長：今年は各常任委員会で時間が取れると思うので、今日もこの後協議会をやるということなので、進展させていただきたい。

片岡議員：SNSを利用した広報があるが、フェイスブックとかそういうもので広報していったらどうかと私自身思っていたが、広報委員会でも議題

に挙げていきたいと思っている。費用が掛からず手っ取り早くできるところかなと思っている。

大野議員：政務活動費の透明化って、後払い、第三者の監査と言うが、岩倉市議会では領収書をHPに掲載しており、第三者監査できる状態になっているので、後払いにするかしないかっていうより、他の市議会みたいに半年に1回支給とか半期に1回支給とかするなら別だが、それだと手間もかかるし、ここの部分は領収書を公開した時点で、その当時は愛知県トップだったが、そこまで必要なのかなと。

須藤副会長：一つずつ、まずは、SNSを利用した広報からとりかかっていたらどうか。

片岡議員：広報委員会のほうで議題に挙げ、みなさんの意見を聞きながら進めていきたい。

榊谷議員：採択した請願の処理経過、その後の状況確認というのは、各委員会で経過がどうなっているか確認していけばいい。ここの中での課題ではないのでは。

鬼頭会長：議会改革全般として挙がっているもので、請願は各委員会で採択するので、そういったところ中心になって行っていけばいいと思う。BCPのチームは作成が終わった後、今後何をやっていくかというのが全く決まっていない状態なので、積み残し課題の中からピックアップしてやっていくのも良いかなと思う。課題が山積しているということを、皆さん、情報共有してもらえたと思うので、こういったところも考えながら、またご意見いただきたい。

## （５）その他

特になし。

### 10 その他

鬼頭会長：マニフェスト研究所による議会改革のランキングが出た。今回は20位。県内では3位。設問が大幅に変更されたこと及び、調査期間を年度から年中に変更したため、単純比較になじまない点、ご了承くださいという注意書きが入っているので、いつも通りの比較とは違うよということのようだ。順位に一喜一憂せずやっていきたい。

次回7月20日（月）午後1時10分から（予定）。